

漁協自営定置網の経営改善に取り組んで

湊漁業協同組合

濱 崎 祐 助

1 地域の概要

久美浜町は、京都府の西北端に位置し、西は兵庫県に接し、北には日本海が広がり、変化に富んだその美しい自然は、山陰海岸国立公園に指定されている。湊漁業協同組合は、久美浜町の北部に位置し、日本海と久美浜湾を隔てるように突き出た砂州の先端部にある（図1）。

2 漁業の概要

湊漁業協同組合は、正組合員122名、准組合員179名の計301名で構成され、地元では、漁協自営の大型定置網を中心に、個人による刺網、一本釣、採介藻、かき養殖などの漁業が営まれている。地区内の年間平均水揚げ額（過去3年）は約2億5千万円で、うち大型定置網の占める割合は約7割である。

3 研究グループの組織と運営

湊漁業協同組合は、昭和38年に地元2漁協が合併して設立された町内唯一の漁協である。役員数は10名（うち常勤組合長1名）、職員数は12名である。漁協では、共済、購買、販売、指導等の事業を実施しているほか、昭和56年から定置網漁業を自営している。平成6年までは、小型定置網を含め計3ヶ統を運営していたが、現在は、大型定置網2ヶ統（沖、磯2階式、水深45m及び35m設置）を運営している（図2）。

定置網従業員は、過去27名在籍していたが、現在は17名（平均年齢43才）で操業を行っている。近年の年間操業日数は約280日である。漁協定置網は、沖漁場に沖垣網（長さ約300m）を設置しているのが特徴の一つである。主な漁獲物はアジ、ブリ類などで、過去5年の平均水揚げ額は約1億8千5百万円である。漁獲物の販売割合（金額割合）は市場出荷分が60～70%、地元分が30～40%である。

4 研究・実践活動課題選定の動機

漁協の定置網は、開始2年目にアジの豊漁により2億3千万円の水揚げ額があり、このまま順調にいくと考えていた。ところが、3年目以降は、水揚げ額が大きく減少し、定置部門で多額の負債を抱えることになった。また、漁協では、他の事業部門でも負債が発生したことにより、昭和61年度に漁協経営の健全化を図るための整備資金を借り入れ、再建計画（平成7年度まで）に基づき、漁協経営の再建に取り組むこととなった。

その後、定置網については、網型改良等を行いながら経営を継続してきたが、水揚げ

額は期待どおりに上がらなかった。こうした中で、従業員の不足とともに、魚価の低迷が顕著となり、経営安定に向けて新たな対策が必要となってきた。そこで、私達は、平成7年から定置網の経営改善に取り組んでいくことにした。

5 研究・実践活動の状況及び成果

これまでの取り組み経過（表1）をもとに、漁協理事会において、これからの定置網経営の在り方について検討した。そして、今後は、網替えなどの管理作業の確実実施と漁獲物の効果的な出荷販売を基本に、水揚げ額の向上を図っていくことにした。

経営改善に係る年次別の主な取り組み状況は表2のとおりである。

具体的には、まず、従業員が減少してきたことを踏まえ、平成7年に、小型定置網を廃止し、大型定置網2ヶ統経営への切替えを行った。統（網）数を減らすことについては、漁協内で反対意見もあったが、私達は、思い切って決断した。その結果、網替えなどの管理作業が従業員20名以内で確実に実施できるようになった。なお、平成7年は、前年に比べ漁獲量は大きく減少したが、マダイやサワラなど高級魚の漁獲が多かったため、前年を僅かに上回る水揚げ額（約1億4千万円）をあげることができた。

次に、漁船が老朽化し、毎年多額の修理費を支出していたため、漁獲物の付加価値向上と作業効率の向上を図ることを目的として、平成8年に活魚運搬船兼作業船「第18熊野丸」を建造（平成8年11月竣工）した（写真1）。

この船は、19t型のFRP漁船で、キャッチホーラー、Vローラー、クレーンなどの多数の機器類のほか、強制給水設備がついたイケス3槽（水量合計約32t）を備えている。最大の特徴は、船のイケス内に収容した魚を活かしたまま、直接、海面イケス内へ移し替えできる舷門（縦0.5m、横0.7m）を左舷に備えていることである（写真2）。このシステムは、九州のまき網運搬船の手法を定置網船に応用したもので、府内では私達が初めて導入した。舷門の使用は、当初手間取ったが、その後、海面イケスへの取り付け金具等を改良した結果、ハマチなど青物の移し替えがスムーズに実施できるようになった。この活魚運搬船では、1kg前後のハマチであれば約4千尾/回の運搬が可能である。また、この船の導入を通じて、本格的な活魚出荷が可能となった。

更に、平成8年から網の計画的な導入、改造に取り組んでいくことにした。平成7年までは、経営再建中で、網への投資が不可能であった。再建計画の終了を受けて、箱網や二重落し網等の主要部分の網を、毎年1~2枚新調し、また、併行して替網として使用するための既存網の改造も行い、効率的な使用に努めた。

平成9年には、活魚出荷を含めた出荷調整体制の確立を図るため、久美浜湾内に海面イケスの追加整備を行った。海面イケスは、7m角6基、5m角4基の計10基あり、主にハマチやイシダイ等の出荷調整に使用している。出荷調整期間は概ね1~2ヶ月である。海面イケスの整備を通じて、相場を見据えた魚の効果的な出荷が実践できるようになった。なお、活魚出荷（平成10年以降）については、平均出荷量約30t/年、平均単価は約800円/kgという状況である。

それから、平成11年に漁獲物の鮮度向上を図るため20t型冷海水製造貯水装置の整備を行った。また、網目拡大に取り組んだ。網に関しては、近隣漁場の操業状況を参考に、平成5年から沖漁場の二重落し網の網目を拡大している。平成11年春からは、

網成り保持とともに資源管理（小型魚保護）も意識し、磯漁場でも二重落とし網の網目を拡大し操業を行っている。具体的には、両漁場で魚捕り部を20節から11節及び14節に、本体部分を15～16節から5節（2寸5分）に拡大した。その結果、網成りが良くなり魚の入網が良くなった。また、急潮が多い梅雨や台風時期における揚網回数が増加した。それから、漁獲物については、予想どおり価値の低い小型魚の漁獲が減り、選別時間の短縮を通じて、漁獲物の鮮度向上、市場への迅速な出荷が可能となった。

これまでの取り組みを通じた主な成果等については、次のとおりである。

（1）漁獲量及び水揚げ額

近年、資源の減少もあり、漁獲量は減少傾向にあるが、水揚げ額については、上向きの傾向にある。特に、平成9年以降は、取り組みの成果が現れ、安定した水揚げ額をあげている。平成9年から平成13年までの平均水揚げ額は約1億8千5百万円（平成2年から平成8年までの平均水揚げ額の約1.4倍）である（図3）。

（2）漁獲物の平均単価

漁協定置網の漁獲物販売平均単価は、平成10年以降、活魚出荷や出荷調整の成果により、府内の大型定置網の平均単価を上回っている。同年以降の単価の平均は約250円/kg（府内大型定置網の約1.2倍の単価）である（図4）。

（3）定置網事業部門経常利益

経営改善の取り組みが実を結び、平成9年以降、毎年、事業部門の経常利益は黒字となっている。なお、同年以降の経常利益額は600～3,400万円である（図5）。

取り組み開始後2年間は、利益を出すことができず、組合員から各種批判を受けるなど本当に苦勞した。けれども、3年目には、これまでの苦勞が実り、近年にない大きな事業利益を出すことができた。また、同年以降、確実に利益が出せるようになり、経営改善の実践方向が正しかったことを実証することができた。

漁協定置網は、これまで近隣漁場の6割程度の水揚げがあれば良い方であると言われて、長年低迷を続けてきた。しかし、経営改善の取り組みを通じて、ここ数年で、漁協経営を支える最も安定した事業に生まれ変わった。厳しい経営環境の中で、漁協理事者と定置網従業員が一丸となり、粘り強く取り組みを実施し、安定した定置網経営を実現することができ、大変嬉しく思っている。

6 波及効果

定置網の水揚げ額が増え、浜に活気が出てきたとともに、定置網従業員に「やれば出来る」という大きな自信が芽生えてきた。

それから、経営改善の取り組みを通じて、漁協定置網は、時代に合った定置網経営のモデル例として、府内で高く評価されるようになった。また、私達の取り組みがきっかけとなり、府内他漁場でも、海面イケス等を使った調整出荷が実施されるようになった。

7 今後の課題

現状に満足することなく、より安定した経営実践に向けて更なる努力を続けていく必要がある。今後は、漁獲物のブランド化や出荷調整を含めた蓄養対象種の追加、海面イケスの釣堀としての有効利用などについて検討実施していきたいと考えている。

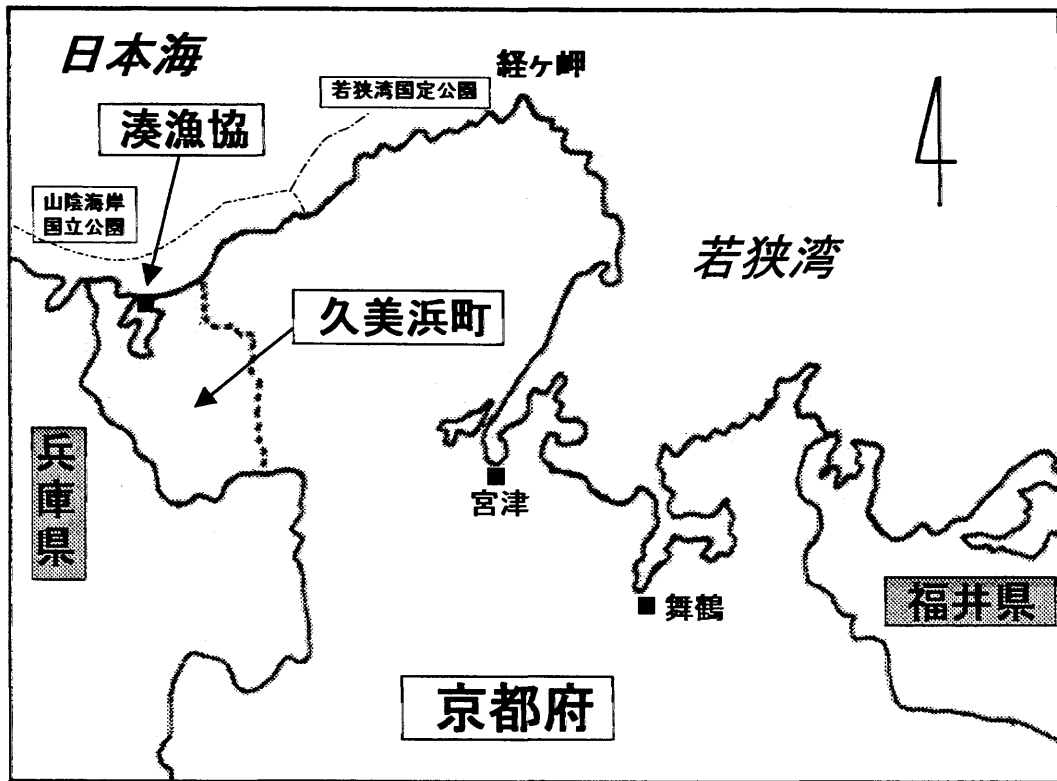


図1 久美浜町及び湊漁業協同組合位置図

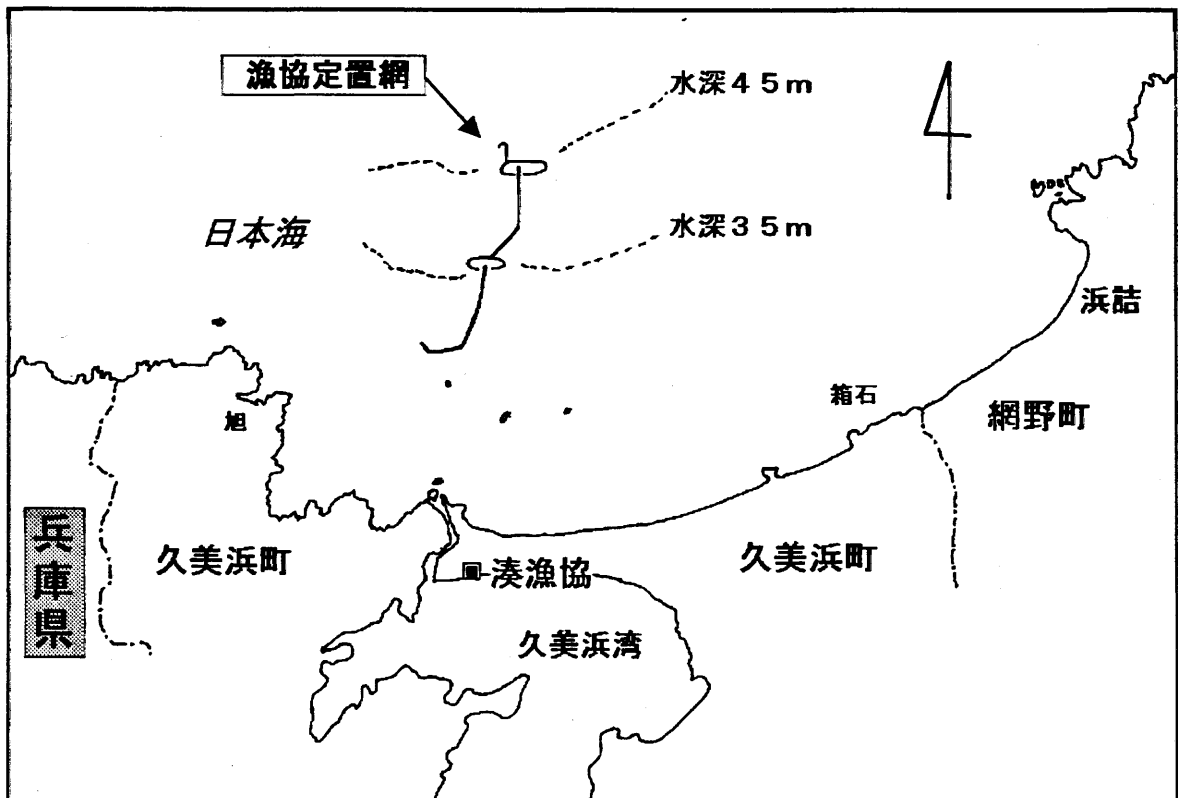


図2 湊漁業協同組合定置網設置位置図

表1 平成6年までの湊漁協定置網の取り組み経過

年	取り組み内容	経営統数	従業員数
昭和56年	定置網(大型)	2	23人
昭和58年	小型定置網追加(3ヶ統経営となる)	3	27人
昭和62年	3隻から1隻揚網操業への変更	3	26人
昭和63年	周年操業開始	3	23人
平成 3年	網型改良(沖及び磯漁場2段箱方式導入)	3	20人
平成 5年	沖漁場二重落し網の網目拡大	3	22人
平成 6年	沖漁場の昇り、箱網改良	3	20人

表2 湊漁協定置網経営改善年次別主な取り組み状況

年	取り組み事項	目的及び状況等	経営改善の基本的な流れ
平成7年	2ヶ統経営への切替え (小型定置網の廃止)	20名以下での網替えなど管理作業の 確実実施、同年以降2ヶ統経営継続	
平成8年	活魚運搬船兼作業船 の建造	漁獲物の付加価値向上、 作業効率向上、 平成8年11月竣工	
	網の計画的な導入、 改造	老朽化した漁具更新と効率的な使用 主要部分の網を順次新調 (1~2枚/年、13年まで継続) 既存網の改造 (新調と併行して実施)	
平成9年	海面イケスの追加整備	活魚を含めた出荷調整体制の確立 既存整備分4基、 平成9年から11年で6基を追加整備	
平成11年	冷海水製造貯水装置 導入	漁獲物の鮮度向上、 20t型を整備	
	磯漁場二重落し網の 網目拡大	網成り保持による漁獲安定、 資源管理(小型魚保護) 沖漁場(平成5年開始)に続いて実施、 魚捕り部20節→11節及び14節、 本体部15~16節→5節(2寸5分)	

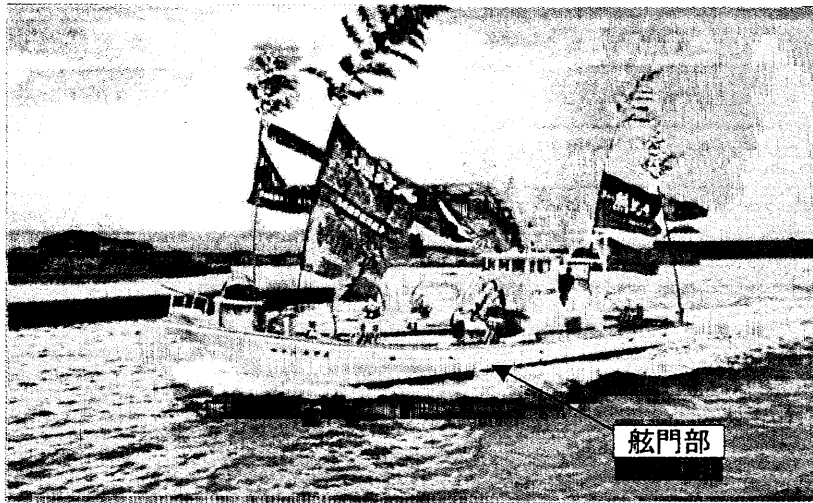


写真1 活魚運搬船兼作業船「第18熊野丸」全景

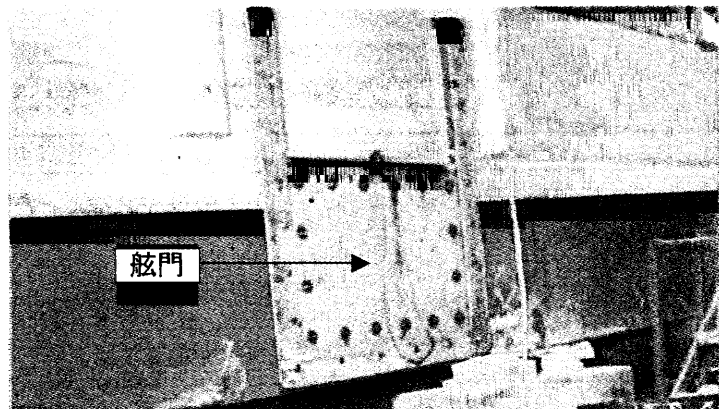


写真2 「第18熊野丸」舷門(舷側から見たところ)

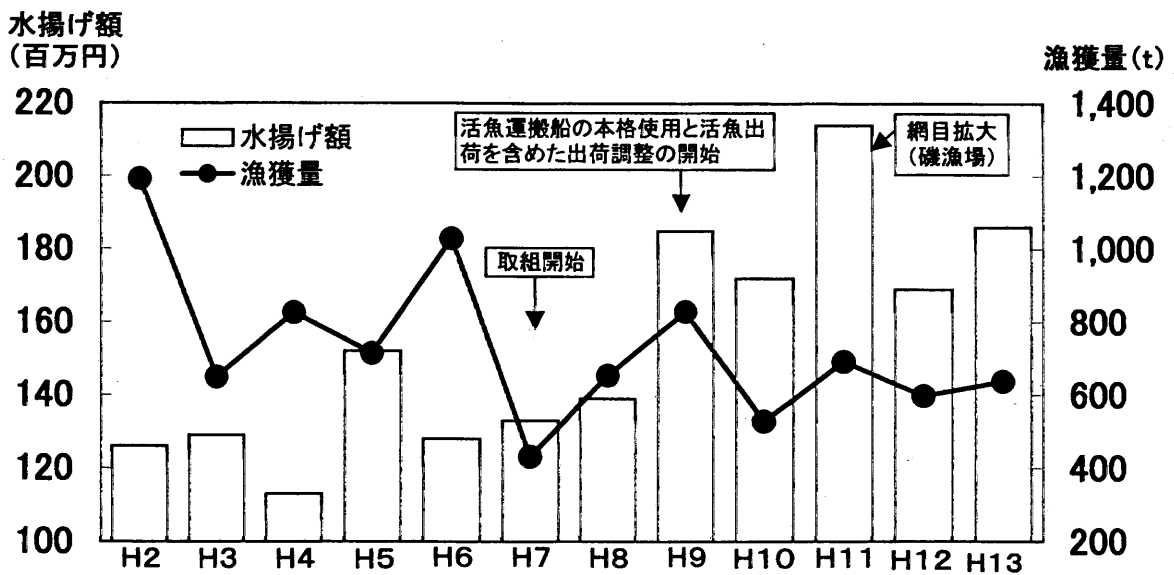


図3 湊漁協定置網漁獲量及び水揚げ額の年別推移

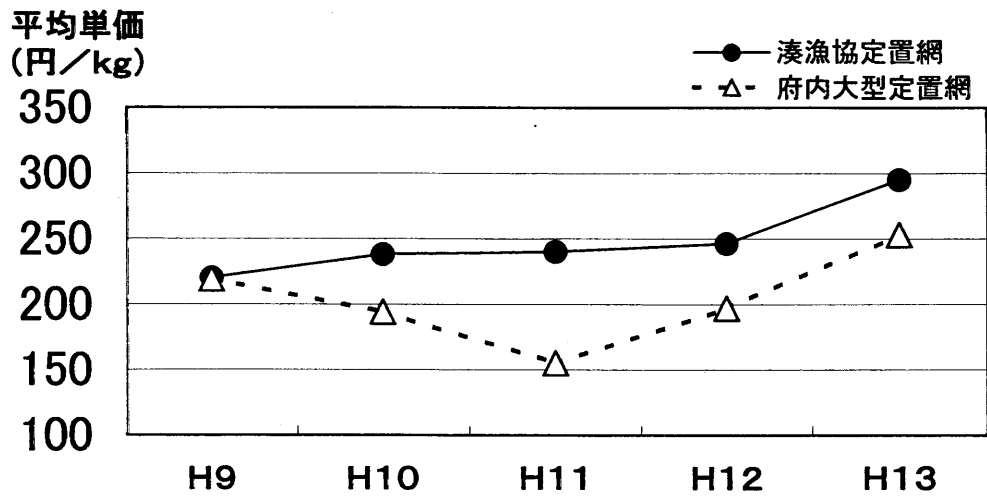


図4 湊漁協定置網及び府内大型定置網の漁獲物販売平均単価の年別推移

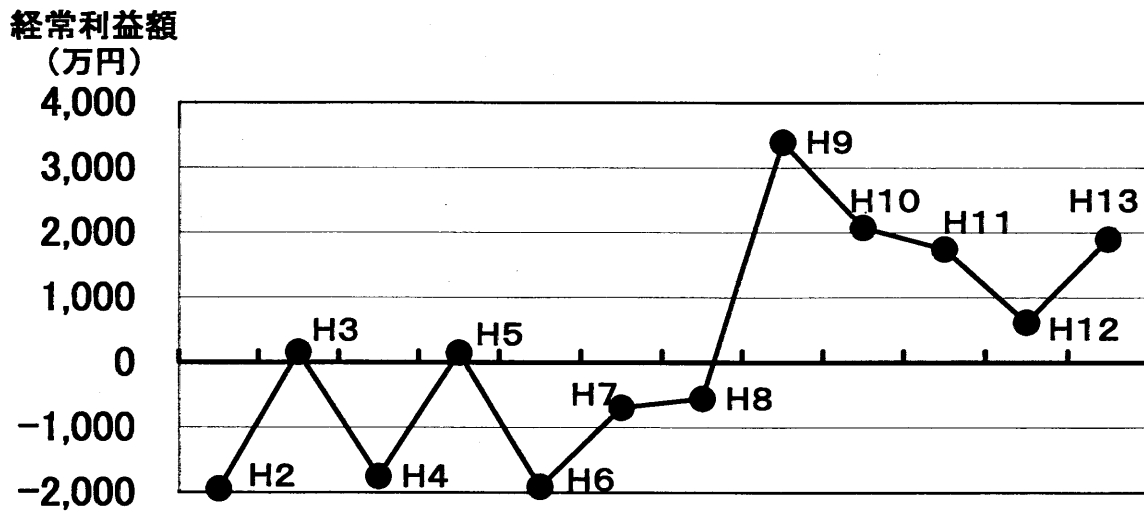


図5 湊漁協定置網事業部門経常利益額の年別推移